

まとめ

プログラム作成と その評価としての ロジック・モデル活用方法

本研究では、ジョブカレの支援プログラムのロジック・モデルを、プログラムの理論抽出により作成しました。また、支援プログラムのロジック・モデルが、個別支援計画と連動していることや、支援状況を把握するための共有ツールとして機能することを報告しました。これらはロジック・モデルが、「支援プログラムへ参加することにどのような意味があるか。参加しつづけることでどのようなスキルが身についていくのか。これからどのように取り組んでいくべきか。」といった見通しを伝える方法として有効であることを意味します。この見通しは、利用者だけではなく支援者、家族、事業所においても必要なものです。また、論理的な整理ができる支援プログラムの確認方法をとおしても、プログラムを作成する際に見通しを意識して作成していることが分かります。高機能発達障害者の特性の一つである想像することが苦手ということへのサポートとして、働くイメージ、生活イメージ、人生イメージの見通しを、本人と本人の周りの人々が共通のものとして持つことができることが重要であるのは自明です。支援プログラムのロジック・モデルは、本人と支援者が日常の支援状況を確認・共有し、修正し、データを蓄積することで、更に発展的に積み上げていけるものです。利用者と支援者、支援者と支援者等、お互いの認識の曖昧さが減らせるものと考えられます。

ただ、誤解がないように言いますと、ロジック・モデルを活用することで、支援環境の曖昧さを全てなくすべきということではありません。プログラムや現場での自由な発想や直感は、非常に大切なものです。そして、そこにはその時々で説明が難しい曖昧さがあります。その曖昧さがあるからこそ成立する支援もあると思います。ロジック・モデルの論理的な繋がりが全てではありません。曖昧さが苦手な方が多い中で、明確にできるところは明確にしておいて、お互いの不必要なズレを少なくすることが重要だと考えています。

また、イメージを具体的に見通す前提には、イメージを持つことが必要になります。なりたい自分や希望する生活イメージを持つための体験や座学の必要性がある方も多いのではないのでしょうか。協力をいただいたジョブカレでは、24ヶ月の利用期間の中を以下の5期の訓練期間に分けて設定しています。

- 導 入 期（第Ⅰ期）3ヶ月
- 基礎訓練期・前期（第Ⅱ期）6ヶ月
- 基礎訓練期・後期（第Ⅲ期）6ヶ月
- 実 践 訓 練 期（第Ⅳ期）6ヶ月
- 移 行 訓 練 期（第Ⅴ期）3ヶ月

訓練期間において、お互いの考え方や見通しを共有しながら、合意のもと支援が展開される必要があります。支援プログラムへの参加の意義をしっかりと確認できるツールとして、支援の進捗管理ができるものとして、ロジック・モデルが有効に機能します。ぜひ、所属する事業所の支援プログラムにおいても、ロジック・モデルを作成したり、「論理的に整理ができるプログラムの確認方法」を活用して、支援プログラムを振り返っていただければと思います。この報告書が、皆さんの活動の充実に少しでも役立てればと願っています。

最後になりましたが、本研究に協力をいただきましたジョブカレの皆様に深く感謝申し上げます。

2019年3月

社会福祉法人グロー（GLOW）～生きることが光になる～
法人本部企画事業部 ケアサービス推進課